

イエスは 聞き



日本クリスチャン・アシュラム連盟

日本アシュラム

アシュラムとはスタンレー・ジョーンズ師がインドの退修方式を取り入れて創設されたキリスト教の新しい祈禱運動である。

開心・静聴・充滿・献身・奉仕 138号

み言葉に聴き従う

ロマの信徒への手紙10章17節

鍋倉 勲



11月6日(土)の午後『新潟中越地震支援街頭募金』のため勤務している大学の学生と教職員のボランティアが街頭に立ちました。大学宗教委員が発議し、キリスト教センター主催で学生達に呼びかけ、約100人の学生がこれに応じてくれました。同日午後3時から6時半まで3時間半JR小倉駅周辺で3班に分かれて立ちました。後、近くの教会で8時まで集計し、集まった募金四十万五千九百六円を8日、西日本新聞民政事業団に寄託しました。新聞も大きく報道してくれました。参加した学生たちは「こんなに集まるとは思っていなかった。被害者の方は大変だと思うが希望を捨てないで頑張りたい」と記者に答えていました。今回の街頭募金は祈りをもって始まり、祈りをもって閉じました。

嬉しいことにそこから更に来春の春休みを活用して現地復興支援の為にボランティア活動へと祈りの輪が広がり、今からそのための祈りと募金が始まります。今回の街頭募金を通して今日の若者達も意味ある言葉に耳を傾け、良きことのために行動する意志と元気を持っていること、また街を歩行する一般市民も聞く耳と善意を一杯持っていることを知りました。

私は米国留学中に牧会心理学や臨床訓練、又帰国後ホスピスの現場や「いのちの電話」のカウンセリング講座等で「傾聴のミニストーリー」の意味とその要性を学びました。これらは横軸の関係、隣人性と言えます。この度の街頭募金もこの類で大切な働きです。

ところがインドに宣教師として生涯を捧げ、戦後日本全国を10回伝道され、祈りの運動「日本アシュラム」を創設されたスタンレー・ジョーンズ博士は私たちのクリスチャン生活に息吹き(霊性)を吹き込んでくれました。それは「神に聴く」運動です。神の言葉である「聖書」から直接祈りの中で神の声を聴く「縦軸」の関係です。旧約聖書には有名な少年サムエルの「しもべは聴きます。主よ、お話し下さい」とあり、また、詩篇には「わたしは朝毎に、夕毎にあなたの御声に耳を傾けます。」等多くあります。「み言葉に聴く」このアシュラム運動がいよいよ深められ、拡げられ、単に個人だけでなく、日本全国の教会、キリスト者家庭が祝され、神の言葉を聴く場として用いてくださることを祈り、期待しています。神のみ前に静まる時、神の御業に期待し、前進する力を与えられます。私たちはクリスチャンに今一番求められていることはこのことだと思えます。

(日本クリスチャン・アシュラム連盟九州地区委員長・西南女学院大学教授)

想 霊

「霊の導きに従って歩め」

甲西伝道所牧師

後宮 俊夫



ソの教会の信徒に対して、「信仰に入ったとき、聖霊を受けましたか」(使徒十九の二)と問いかけています。これに対してエフエソの信徒は「いいえ聖霊があるかどうか、聞いたこともありませんが」と答えました。このような問に対しては私たちも聖霊を受けていますと、確信をもって云えないところがあります。

「イエスは主である」との主題のもと、「聖霊によって歩みなさい」のみ言葉について学びたく存じます。わたしたちが愛に満たされるためには「イエスは主である」との信仰に生きることが大切な条件です。この信仰の告白が、教会の中だけでなしに、日々の生活の中で活かされる必要があるです。アシラムの中心は、言葉が言葉だけで終わってしまふのではなく、言葉が肉(具体的実践)となることにあります。

スタンレーアシラムでは、スタンレー自身が全期間中終始プログラムを指導し、米国から、祈りの証人を同伴して祈りの大切なことを語っていました。プログラム最後の充滿の時、九十五パーセントは晴れやかならんと云うのです。私はこの九五パーセントは自分自身の問題だと思わせられました。ほんとうに聖霊に満たされて「イエスは主である」という生きた信仰になっているかどうかが問われたのです。「イエスは主である」がほんものの告白であるためには聖霊に溢れていなければなりません。そのためには古い自我に死んで、新たに創造されたものとなり、造り主のみ心になつた歩みをしていくかが問われるのです。「わたしに向かつて『主よ、主よ』という者が皆天国に入るわけではない。わたしの父の御心を行う者だけが入るのである」(マタイ七の二十一)とあります。み心を行うとはどういうことなのか、これを知ら

うとすると、神の言なる聖書を自己自身への言葉として聞くことが必要であると示されたのです。わたしは召されて牧師となり、信徒を導くことを使命として自覚するのですが、いつのまにか教会の指導者であるとの高慢な思いになっている。それは自分の肉が頭をもたげ、肉と霊の対立の中で肉の思いが先立っていることを思わせられたのです。聖霊によらなければ明け渡しは出来ないし、又聖霊の充滿は完全な明け渡しなしには不可能であります。

このたびのアシラムに於ても、最後の充滿の時には、一人一人聖霊に満たされてそれぞれの場に遣わされたく存じます。キリストへの明け渡し、開心、静聴、立証そして教会への奉仕と伝道、神の国の体験と献身の信仰へと進みたく存じます。主は私たち一人々々を愛しておられ、「イエスは主である」との信仰に歩むことを期待しておられるのです。そのために復活の主が弟子たちに「エルサレムを離れず、父の約束したものを待ちなさい。……あなたがたの上に聖霊が降ると、地の果までのたしの証人となる」(使徒一の四、七、八)と仰せられました。弟子たちはその約束を信じてひたすらに祈ったのです。この約束とみ旨とは、私たちに与っては静かに主のみ声を聞き、主のみ旨を受けとめることで

もあるのです(サム上三の九)。み言葉を聞いてもその通りお従いしなければ何も起こらず、聖霊の導きも充滿ありません。神さまは私を愛しておられないのではないかと悩ましてしまふのです。私達は独り子をお与えになるほどの大きな愛にまつまれています。明け渡しが出来ず、アシラムがまだ良くわからない人を愛して待つていて下さっているのです。キリストは自由を得させるために、律法の奴隷状態から解放して下さいました。「この自由を肉に罪を犯させる機会とせず、愛をもって仕えなさい」(ガラテヤ五章)肉の悪しき業から解放されて「愛・喜び・平和・寛容・親切・善意・誠実・柔和・節制の聖霊の結ぶ実に満たされて、伝道と証しの場へと遣わされたく存じます。主は私たちが思うより遙かに大きなわざをもって栄光を現わして下さいませ。

証 「聖霊の働きを見た」

静岡県榛原町 祈りの家

横山 勲

教友薫科さんのご夫婦よりお誘いと招待を受け妻と共に初めて参加させて頂きました。

若き日よりアシラムの噂を耳にしておりましたので、一度は見えておくのもやぶさかではないと、半ば物見遊山で山を登りました。しかし、

そこで見た幻は予想を超えた聖霊に満たされた集会でありました。六十歳を越える私でさえ若輩と思われる会衆の中から繰り出されるメッセーヂ、御言葉の分かち合い、証し、祈りは洗練され霊に燃えたものであり、その霊性の高さに圧倒されてしまいました。

開心の時には聖霊に促がされ、素直に心を開いて私のニードを初めて会った兄弟達に訴えて祈って頂くことが出来たのは得難い体験でありました。主はニードに的確にお答え下さり最後の充滿の時に「明け渡しをしないさい」そうすれば「私はおまえの内で生きる。」と語られました。この福音の真理を掴むことが出来たのは何よりの恵みであり収穫でありました。

もう一つ今回のアシラムでの聖霊の働きについて印象が残ったことを記しておきたいと思えます。

プログラムも終盤に近づいた時、聖霊はある兄弟と驚くべき罪の告白と悔い改めに導かれたことでありました。一体如何なる勇気があの兄弟に仿いたのか。ただ電撃に打たれたように聞き入っていました。そして次の集会においては詩篇が読まれ、特に七節「ヒソプをもって私の罪を除いてきよめてください。そうすれば、私はきよくなりましょう。」を読み終った彼の顔に平安が満ちて

いるのを見届けることが出来ました。私の心の内で「兄弟よおめでとう。おめでとう」と叫ばずには居られませんでした。このような聖霊の著しい働きを見たのは初めての体験であり、ますます今回のアシラムに参加出来た恵みを噛みしめております。

最後に参加者が一同がスクラムを組んで賛美していた時、聖霊が静かにこの身に充ちてくるのを感じ取るこゝとが出来涙が溢れました。来年は五十周年記念アシラムと聞いて居ります。今からこの日が待ち遠しい思えます。皆さんまたお会いしましょう。

第四二回関東アシラム報告

島津 吉成



第42回 関東アシラム 2004年9月20日(月)～22日(水)
会場 山崎製パン箱根山荘にて

第四二回関東アシラムが、今年も山崎製パン箱根山荘をお借りして九月二〇日～二二日に行われました。主題は「御霊によって歩きなさい」(ガラテヤ五章一六節)で、今回は、関西より後宮俊夫師(日本基督教団甲西伝道所牧師)を助言者としてお迎えし、二回持たれた「福音の時」にメッセーヂを取り次いでいただきました。参加者は四九名。昨年が四六名でしたので、昨年よりも若干多い参加者が与えられ、感謝でした。

まず、横山義孝師(関東アシラム委員長)による開会礼拝ではじまり、先生は詩編十六編からみ言葉を取り次いでくださいました。オリエンテーションは、私、島津が担当し、続いて関心の時を木部安来師、夕食の後、七つのグループに分かれて祈りの細胞が行われました。そして、夜十時から翌朝まで、参加者に一時間ずつ希望する時間を担当していただき、祈祷室で連鎖祈祷がさざげられました。

二日目は、午前六時三〇分から静聴の時、飯島紀子姉が導いてくださり、イザヤ四三章を静聴しました。朝食後、福音の時、後宮師よりローマ十二章一～二節から、今日までの様々なご経験を通しての味わい深いメッセーヂをいただきました。午後

は、ファミリーアワー、各地のアシラムの報告や来年に予定されている日本クリスチャンアシラム五〇周年記念アシラムについて話し合い、また、今年に関東アシラムの役員改選期に当たっておりましたので、そのことを協議し、引き続き横山義孝師が委員長を務めてくださることになりました。二日目の夜は、賛美と証しの集会で、安藤脩師の司会で、七つの祈りの細胞から一名ずつ証し者を出していただき、それぞれが、これまでの信仰生活を通して主からいただいた恵みをお証ししてください、涙あり、笑いあり、共に、主の御名をたたえました。また急ごしらえの聖歌隊の力強い賛美、そしてハーモニカによる賛美や独唱なども加わり、まさに恵みに流れたひとときとなりました。

昨夜に続いての連鎖祈祷の後、三日目の朝は、永田直子姉が静聴の時を導いてくださり、ガラテヤ六章から一同で静聴をし、その後、昨日と同じように分かち合いの時を持ちました。そして、福音の時の二回目、後宮師は、ガラテヤ五章一三節以下から「御霊によって歩きなさい」と、主題に掲げられたみ言葉をとお語りくださいました。そして、最後に充滿の時、有馬歳弘師の導きにより、参加者が次々とこのアシラムでいただいた恵みを証しし、最後は一同が輪になって腕を組みつつ一つ

今回のアシラム(十月十日から十一日)は会場探しから始まりました。今まで使用していた皇子山国際交流セミナーハウス(大津市)が閉館となったためです。その為に委員の皆さんがそれぞれ心当たりの施設を訪問したり、電話で問い合わせた



第三八回関西アシラム報告
小林 勝

となつて賛美し、ここまで導いてくださった主をほめたたえ、主に感謝をささげました。
私たちの、願うところ、思うところをはるかに越えて豊かな恵みを与えてくださった主に心から感謝しつつ、ご報告させていただきます。

り、尽力していただきましたが、アシラム集会に使用する場所としては収容人数の上からも、費用の点からも不適切と思われる所ばかりでした。幸い、最後に古河治先生が訪ねられた関西学院千刈キャンパスが、アシラム開始時間直前で前の集会が終了すると分かり、主のお導きと違って会場に決めました。

今回のアシラムは、「開会の祈り」を清永潔先生、「開心の時」を辻中昭一先生が担当され、夕食後一回目の「祈りの細胞」が持たれました。一日目の最後に土山牧善先生が「福音の時」を持たれ、この夏にご夫人を天に召された土山先生のご結婚時から二人で共に歩まれた主の僕としての証は、聴く人々の心を打ち、聖霊の強く働かれる時となりました。そのため、あやうく入浴の時間を経過してしまふ程でした。終夜の連鎖祈持は参加者多数で例年通り戸波淳兄が担当されました。

翌十月十一日(月・祝)は、「朝の祈り」を金武士先生が担当され、すがすがしいキャンプ場の木々の下で祈りと聖書の説き明かしを戴きました。鳥のさえずる自然の中での霊的なひとときは素晴らしいものでした。

朝食後「静聴と分かち合い」を古河治先生が、写真撮影を清水潔先生が担当され、二回目の「祈りの細胞」

を四グループ、奉仕者小島十二、辻中昭一、平方美代子、古河静子各先生担当で確実な祈りの答えを証し、主に栄光と感謝をささげ、持ちました。それぞれのファミリーのメンバーが自筆の名前が書かれたハガキを作成して、一年間一人一人を覚えて祈ることとしています。「労作の時」を佐野昌弘先生の指導の下でキャピンの清掃をいたしました。終了後昼食を戴きながら教会別出席者の紹介がありました。

午後「充滿の時」が持たれ、杉田常夫先生の導きで今回のアシラムで戴いた恵みを共に分かち合いながら、今回も含めて色々の困難を乗り越えて三十八回まで続けられた主の導きを強く思わせられました。

関西アシラムは、構成する委員と出席者の一人一人が日々祈るなかで奉仕する働き人の集まりです。委員の牧師と信徒がそれぞれ毎年アシラムの霊的な働きを聖霊に満たされて奉仕され、生けるキリストの恵みにあふれるアシラムとなっております。これからも主の導きを第一に求め、その交わりに生かされる勝利のアシラムを続けていきたいと願っております。

(関西アシラム書記 小林 勝)



地区アシラム予告

●第35回城北アシラム
とき 05年2月11日(金) 午前9時30分より午後4時

●第12回東京新生アシラム
とき 05年2月19日(土) 午後7時から20日(日) 午後3時迄

ところ 日本基督教団新宿西教会
ところ 日本基督教団東京新生教会

へお尋ねとお願ひ

▼E・スタンレーの左記著書・お譲り頂ける(相当額礼)方・TEL0422-33-0018 FAX同33-0061に、ご連絡を願ひ上げます。

・「凡ゆる道のキリスト」'32年出版
・「山上のキリスト」'33年初版・'57年再版

・「人世苦とキリスト」'51年出版
・「力と落着きへの道」'53年初・'55年再版

・「豊かな生活」'54年出版
・「マハトマ・ガンジー」'55年出版

・「日々の勝利」(II) '57年出版
各地区の諸活動に祝福を祈りつつNo.138をお送りします。(Y)

東京都目黒区中央町1の21の10
日本クリスチャン・アシラム連盟
振替口座 東京0100-1-1455八
理事長 大石嗣郎
編集人 横山義孝
定価 一部60円 78円